SHINCLUB 183

(株)辰　東京都渋谷区渋谷3-8-10　JS渋谷ビル5F　tel/03-3486-1570　fax/03-3486-1450

「旭町診療所」　撮影：平賀哲

今月のトーク/monthly talk

地域医療

今月は、写真の千葉県に竣工した新しい診療所をご紹介します。

超高齢化社会に突入している日本。大学病院などの大病院と、地域の開業医との連携が不可欠と言われています。高度な検査や治療を希望する場合は大病院を利用しますが、体調不良という程度の人や、一定の治療を終えて経過観察の段階になった人は自宅近くの開業医で診察を受けましょうということです。また要介護認定を受けた高齢者の方は、すぐに施設に入ることが難しい状況や最期は自宅で過ごしたい、という本人の気持ちを優先して、自宅で近くの医師、看護士、介護士、作業療法士らのチーム医療による訪問看護を受けることもできます。

先日、ある大学病院で経験したのですが、そこでは 15 もある診察室で午前中だけでも一人の医師が平均 15 人ずつの外来患者の診察をこなさなくてはならず、ちょっと余分の説明を受けるとあっという間に時間が経ち、結局「3 時間待ちの 3 分治療」という状況が生まれてしまいます。
医師の絶対数が不足しているともいわれていますが、一方で、一人当たりの診察回数が OECD 各国と比べて多いというデータもあります。そのときも、ある高齢のご婦人が、診察日でもないのに来てしまったようで、フロアスタッフの女性に「今日は、○○先生の日ではないけど、来てしまったの。お顔だけ見られれば、ほっとするの」と何度も話をしています。どうやら朝からずっと待っていたようです。席を外した後、戻ってきた女性スタッフは「先生は、もう少ししたら病室から下りてきますから待っていてくださいね」と答えました。人道的な対応ですがこれではたまりません。高齢者は治療費も安く、早期発見・早期治療は、重症化しないためには大切なことで、国民皆保険制度の優れている点といえますが、顔を見るだけというのでは、診察を受ける側の在り方としては考えなくてはなりません。壁には、「地域の医院とのネットワークを充実させていきます。治療が一段落した患者さんは、地域の診療所で継続して受診していただくようにお願い申し上げます」との張り紙がありました。

医師の数は、実際には増えているのでしょうか、減っているのでしょうか。一昔前は、医師過剰と言われて、政府も「診療科による医師の不均衡、地域偏在による医師不足、給与レベルでの医師不足などいろんな条件が重なっているが不足はない」という認識でした。しかし実際には対人医師数は他国に比べて決して高くなく（人口 1000 人当たりの医師数は 2.0 人で OECD 諸国の平均 3.3 人より少ない／ OECD2006 年調べ）、2008 年からは医師養成数を増加する流れに転じています。

地域での病院経営は本当に大変だと聞きます。訪れる患者さんの来院理由をまず見極め、日ごろから患者さんとの付き合いの中で患者さんとの信頼関係を築き、医療スタッフとの共同作業で、的確な医療を施していく―そんな医師になるために、若い医学生の臨床経験を充実させる仕組みが求められています。
「旭町診療所」の建て主のご一家は、土地のオーナーであるお母様、長年医学教育の現場でお仕事をされてきた息子様、診療所長となられる奥様、建物の設計を担当された娘様の皆様で、この地域の医療の充実を目指しています。地域全体を視野に入れた、その構想に、改めて敬意を抱かずにはいられません。

旭町診療所

のびやかな内部空間で地域医療の実習の場として機能する診療所

クライアントは、医学系教育、特に地域医療の実習を行える診療所の必要性をかねてから感じており、地元の人たちが気軽に訪れることのできる建物を希望していた。また高齢者の多い地域であり、全ての診察室はワンフロアにまとめられるように求められた。

ワンフロアにまとめるためには、敷地いっぱいにＬ字型プランにならざるを得ず、周辺環境への圧迫感を低減する検討を行った。

敷地境界に沿って最大限のボリュームから上部を削り、メインエントランスの東側道路に向けて、さらに稜線を下げることで周囲への圧迫感を抑えつつ内部に入るにつれて、空間が広がる構成をつくりだした。そして、その過程で外殻をずらすことで生まれた凹みの側面に開口部を設け、隣地の近接する建物に直面することなく内と外がつながるスペースを配置した。

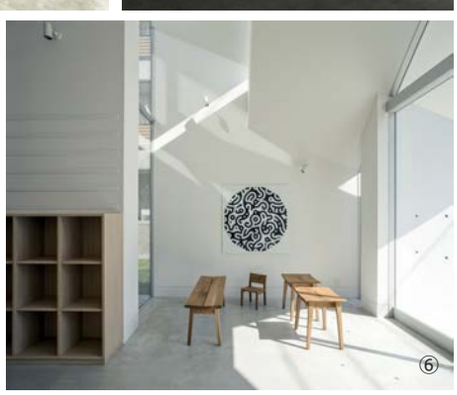
特に待合室となるラウンジは９m近い吹き抜けを設け、２ 階を大きくセットバックさせることで、街の路地のような空間を生み出している。

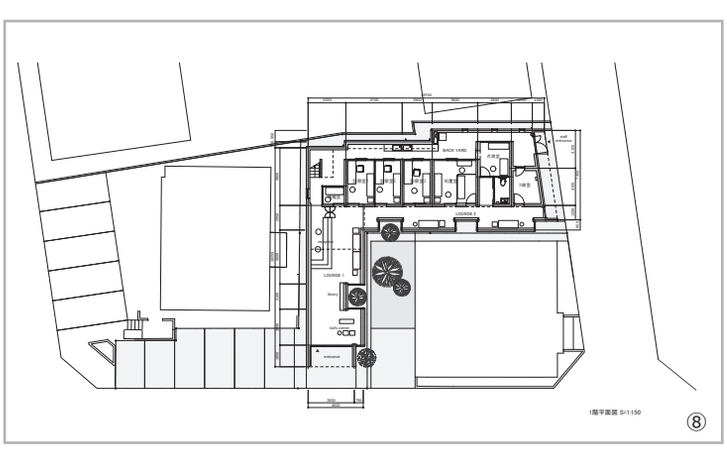
このような広がりの強度を確保するために、構造は RC 造とし、診察室のある北側を壁構造、エントランスのある東側を壁床ラーメン構造にしている。異なる角度が接する部分は型枠処理が難しいが、設計で用いた３Ｄソフトを利用して、施工者とともに全体形状を把握しながら躯体施工を進めていった。

その結果、「家型」が連続したユニークな外観となった。

訪れる患者さん達に愛される、病院の枠を越えた地域の拠点となることを願っている。

（田邊曜氏　談）





所在地：千葉市中央区旭町 18-5
構造：RC 造
（壁構造＋壁床ラーメン構造）
規模：地上２階
用途：診療所
設計・監理：田邊曜／ hkl studio
設計協力：木下道郎
　　／ワークショップ
構造：構造計画プラス・ワン
施工担当：熊谷、竹原、石井
竣工：2015 年３月
撮影：平賀哲

①東側道路からエントランスを臨む (夕景)②連続する家型の形状は奥に行くにつれて高くなっていく③ラウンジ吹き抜け上部のカンファレンスルーム。チームであたる地域医療には必要不可欠な空間④エントランスから見たラウンジ。２階の奥にカンファレンスルームがみえる⑤診察室側からエントランス方向を臨む。オープンでありながら、隣地の建物に対しても視線を遮る⑥ラウンジのベンチやスツールは飛騨産業の木製家具。居心地のいいリビングのような空間⑦北側診察室前は、建物上部からの光が差し込み、街の路地のような空間となっている⑧平面図

これからの医療を担う人材育成の場に　　田邊政裕・惠美子夫妻、田邊曜／ hkl studio

「旭町診療所」竣工座談会

地域医療の実践の場として

今月は「旭町診療所」の建て主のお一人である田邊政裕様（千葉大学名誉教授）と政裕様の奥様で診療所長となる惠美子様、そして設計者であり、娘さんでもある田邊曜氏の御３方に、オープニングを前にお話を伺いました。（以下、敬称略でお送りします）

―この医院を新しく建てられることになったのは、建替えということではないのですね。
惠美子:ええ、現在、私は千葉駅前に皮膚科を開業して 10 年になります。ここには夫の両親の家があり、夫の母は数十年前から、ここに地域の方々、特に高齢者の健康維持のために役立つ施設を作りたいとの希望が強くありました。一方、夫は医学教育を専門にしていた関係で、この地が千葉大学医学部、薬学部、看護学部のキャンパスから至近の位置にあることから、千葉大学の学生達が「地域で学べる」、地域医療の拠点となる診療所を作りたいという思いがありました。そこで今回、母と夫がそういった形を具現化した診療所を建設し、まず私の皮膚科がここに移転し、今後、発展させていこうということになったわけです。

田邊曜氏

政裕：大学の中だけでは、学生や研修医が実際に患者さんの診療に携われる機会はなかなか多くないですね。また教育は臨床、つまり現場に出ないと学べないことが本当に多いのです。特にこの地域では高齢者の方達が増えていて、地域医療の重要性が増しています。ここに長く暮らしている私の母も高齢になり、それを実感していたようで、医院建設を決意したわけです。
惠美子：医学生にとって、大学病院や大規模総合病院の診療の場では、実際の患者様のお気持ちや保険のシステム、経営などに直接触れる機会は乏しく、私自身の経験からも、学生のうちに、こういった地域の診療所での働き方を経験する機会がほしいですね。
政裕：大学病院で教える側の教員自身もそういった経験はないことが多く、学生のうちに見ておきたいですね。
曜：クリニックの設計は初めてでしたが、具体的に母からいろいろと使い勝手などのアドバイスを聞けたのはよかったですね。学生の研修スペースとなるカンファレンスルームを待合スペースと連続する吹き抜けの上部に作りました。
惠美子：カンファレンスルームからうすいカーテン越しに、下の受付、待合にいらっしゃる患者様、スタッフの流れが把握できるのも、実習する

田邊政裕氏

る学生にとって、診療所の中に身を置いている実感が得られ、良いことだと思います。
曜：L 字型の敷地の建物の形は、隣接するマンションの視線を遮りながら、開口部をずらして明るさを取り込んでいます。
―軽井沢のコテージのような心地よさがありますね。
曜：病院のロビーでベンチが並んでいるのは、あまり気分がいいものではないので、患者さんの待つスペースをそれぞれ気持ちよい空間にしたかったですね。
政裕：大学附属病院の本来の機能は、教育、研究と高度医療の提供です。今後はプライマリケアと呼ばれる、大学附属病院では経験のし難い医療を、地域で看護師など様々な保健医療専門職の皆さんと協同して実践し、そこで医学生ばかりでなく看護学部やその他の医療系学部学生も一緒に実習できる体制を構築できればと思っています。

―本日はありがとうございました。

田邊惠美子氏

田邊　曜
1979 年　千葉県生まれ
2002 年　日本女子大学家政学部住居学科卒業
2004 年　Renzo Piano Building Workshop にて研修
2005 年　早稲田大学理工学研究科建築学専攻修了
2005 ～ 2012 年　伊東豊雄建築設計事務所勤務
2013 年　hkl studio 設立
2013 年～ 千葉大学建築学科非常勤講師

田邊　政裕
1949 年　千葉県生まれ
1974 年　千葉大学医学部卒業後、千葉大学医学部附属病院第二外科に入局。同大学小児外科助教授
1999 年～ 同大学、卒後・生涯医学臨床研究部教授
2005 年～ 同　総合医療研修センター教授・センター長
2014 年～ 千葉大学名誉教授

田邊　惠美子
1974 年　千葉大学医学部を卒業。内科研修後、75 年同大学皮膚科に入局。
国立習志野病院皮膚科医長，東邦大学医学部付属佐倉病院皮膚科 部長
2005 年　千葉中央皮膚科を開院

TOPICS/INFORMATION

リビングデザインセンター OZONE 「家 design スタジオ」 改修工事　　2015 年 4 月

新宿パークタワー内 OZONE7 階の「家 design スタジオ」では、新築、リフォーム、インテリアを計画中のお客様を、OZONE 住まいづくりコンサルタントと OZONE インテリアデザイナーがサポートするサービスを行っています。設計者でも施工者でもない中立な立場から、最適な「家」をつくるプロセスを提案し、エンドユーザーの立場に立って、登録建築家など依頼先のコンペも随時行っています。弊社では、以前、「住まいの照明体感ラボ」というコーナーの改修工事をさせていただきましたが、今回は 7 階の「家 design スタジオ」の改修工事を拝命しました。

住まいづくりソリューション部の原目崇司さんにお話を伺いました。

「リビングデザインセンター OZONE では、3-7 階まで、ザ・コンランショップを始めとする、家具やインテリア雑貨、キッチン設備など洗練された住宅設備のショールームやショップで構成されていますが、7 階は CLUB OZONE スクエアなど、独自の（住まいづくりの）情報スペースがあります。カタログライブラリーはカタログやサンプル帳、約 8000 冊をご用意しており、設計者の皆様がお客様をご案内し、設備や商品の選定に役立てていただいていますね。今回の『家 design スタジオ』はそこに隣接する形でご用意させてもらいました。実際のお話を進められる際、より便利になるかと思います。

新宿は、住宅設備や内装材メーカーのショールームがたくさん集まっているところです。

LIXIL、トクラスや DAIKEN、TOTO、YKK・AP の 3 社合同のショールームなど、OZONE も含めて約 30 社で『住まいのショールーム会』として最新情報を発信し、イベントなども行ってきました。新宿へお越しの際はぜひご活用いただきたいですね」

新宿パークタワーへは、西口エルタワー前より、無料バスも運行されています。どうぞ、お立ち寄りください。

7 階エレベーター前からブースを臨む

所在地：新宿区西新宿 3-7-1　新宿パークタワー 7 階　リビングデザインセンター OZONE
TEL:03-5322-6500（代表）
開館時間：10:30 ～ 19:00
休館日：水曜日（祝日除く）・夏期・年末年始
www.ozone.co.jp
撮影：野口和仁

落ち着いた雰囲気の商談ブース

「家 design スタジオ」の受付でスタッフが対応

ブースの反対側、右手が「住まいの照明体感ラボ」

「ユニホー東京支店ロビーに グループ各社の施工写真展示ギャラリー設置」

麦島オーナーの発案で、まず池田建設様の施工物件と弊社施工の物件がいくつか展示されています。
市ヶ谷のユニホー東京支店にお越しの際は、ぜひご覧ください。

生田教会

「團紀彦氏の作品集『NORIHIKO DAN』 が韓国の Equal Books から出版されました」　3 月 1 日

弊社施工の「表参道けやきビル（Omotesando Keyaki Bldg）」や台湾の「日月潭風景管理処」（Sun Moon Lake Visitor Center）」など、近作を中心に掲載されています。テキストは英語です。
お問い合わせは eualbooks@gmail.com まで。

「(仮称) N ビル 新築工事　地鎮祭」　5 月 19 日

賃貸兼オーナー邸です。水廻りを集中させ隠すことにより、両面採光の広いリビングが可能になりました。

構造：RC 造
規模：地下 1 階、地上 5 階
用途：共同住宅
設計：小川晋一都市建築設計事務所
完成予定：2016 年 2 月

「(仮称）フレッドペリー旗艦店 新築工事　地鎮祭」　5 月 29 日

大きな吹抜けが特徴的なファッションブランドの旗艦店です。

構造：RC 造
規模：地下 1 階　地上 2 階
用途：店舗
設計：ジェネラルデザイン一級建築士事務所
完成予定：2016 年 3 月

編集後記

・火山の噴火のあとは、巨大地震、と地球の身震いに翻弄される日々です。都会の脆弱さを痛感させられます。
・川崎の簡易宿泊所の痛ましい火災は、私たちの社会の貧困さが、露呈してしまった事件でした。足りない部分に対して、もっとやらなければならないことがある、と感じずにはいられません。

(株)辰 通信　Vol.183　発行日　2015年6月10日　　編集人：松村典子　発行人：森村和男
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10　TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450　E-mail：daihyo@esna.co.jp　URL :htt p ://www.esna.co.jp